
夏の頃に思うことは

睦月健人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の頃に思うことは

【Nコード】

N4083U

【作者名】

睦月健人

【あらすじ】

夏の話。後悔の話。今のうちに書いておこうと思ったものです。

▼pixivの方にも別名義で上げてあります。

(前書き)

あつい

ころの

わたしの

むかし

ばなし

高2の夏は忘れられない。

多分、あまり性能のよろしくない俺の頭でも忘れないだろう。

その年の春頃。

じいちゃんが「飯が引つ掛かる」って言って病院行つて胃癌だったから入院して胃を取つて……みたいなことが起きた。

その頃からあほんだらあだった俺は「へえ胃癌でヤンスか」みたいな感じで全く意に介していなかった。
今から戻つて自分をはっ倒してやる。

飯を食べなくなると人間はすぐ死ぬ。

初夏。

固形物が食えずがりがりに痩せこけたじいちゃんが何だか嫌で、俺は口を利かなくなった。

話しかけられたら返すけど、何を話していいのか分からなかったんだ。

だって、もう頭蓋骨の形が分かるくらい痩せちゃってんのにさ、楽しい話なんてできるはずもないじゃないか。

部屋にもなるべく行かなくなった。

前は入り浸つてたのに。

「じいちゃん大好き！」なんて、ガキの頃は無邪気に笑って言うたじゃねえか。

何で大きくなると言えなくなんだよ。
分かんねえ。自分で自分が分かんねえ。

成績表に1が付いて、ママンに怒られてる最中にボロツと出た「死んでやる」。

ぼこぼこに怒られて泣き腫らした目が、じいちゃんの悲しそうな目と合った。

日本語じゃない単語の羅列を叫んで、画材をぶちまけた。
ボロボロ泣きじゃくりながら、ずっと自分を呪っていた。

バカバカバカ、俺のバカ。

16歳にはつらかったんだ。
すっかりしなきゃいけない気がして。

8月28日。

最近会ってないなーとか、夜中に風呂から出て体を拭きながら考えた俺。

何故会いに行かなかった。

会いに行けばよかった。

どうして行かなかったんだよ。

翌朝にでも会いに行けばまだ間に合ったぜ。

昼でも間に合った。

口実はいくらでも有っただろ。

ふざけて「こづかいくれよ」でも、「地デジ見せるよ」でも。
ただ「会いたくなつたから来たよ」でも。
DSのタッチペンを握らずにペンを握って手紙を書けばよかった。
誰かが言ってくれたら、
俺はひねくれてて可愛げの無い孫だったけど
じいちゃん孝行する気満々だったよ。
どうして言ってくれなかったんだい。
どうして教えてくれなかったんだい。
気付かなかった俺が一番悪いのだけれど。

8月29日。

さよならじいちゃん。

最期まで俺に会いたがっていたと聞いて、俺は壁に体当たりと頭突きを繰り返した。

自分なんて生きてる価値が無いとさえ思った。

とてもとても悲しかったけれど、涙は一粒も出なかった。

「あんたじいちゃんに会いに行かなかったでしょう？」

「（ギクリ）……うん」

「じいちゃんずっと心配してたのよ。『黒幕は元気か？最近会ってないな』って」

泣きながらそういう祖母の前で、俺は夕飯を作り続けた。

おにぎりを握り続けて、早い時間に眠った。

決して、つらくなかったわけでもない。

悲しくなかったわけでもない。

嬉しかったんだよ。思われてたって、気付けたから。

そして自分が嫌になつたんだよ。
今も嫌なままだよ。

きつとずっと嫌なままだよ。

だから、あの日誰もが眠ってしまった家の中で
布団に潜り込んだまま

吼えるように泣き喚いたよ。

ごめんね、じいちゃん。

誰かの前では泣きたくなかつたんだよ。

これが最後のじいちゃん孝行だよ。

許してくれなくて、いいからね。

今年も会いに行きます。

今年はスーツで会いに行きます。

貴方が買ってくれた制服はまだとってあります。

だから俺がそちらに行くまで

仏様のまま待っていてくれますか。

あついなつのなか、まっついていてくれますか。

貴方が愛してくれた俺は、東京で生きています。

もうすぐ、二十歳になります。

そうしたら貴方が最後には吸えなかつたマイルドセブンを吸い、
飲めなかつたビールを飲みましょう。

大好きと言えなかつたことを詫びながら。

（後書き）

今年三回忌です。

スーツで行ってきます。

文中の『俺』と『黒幕』は私のことです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4083u/>

夏の頃に思うことは

2011年10月5日20時37分発行